

3 公共交通等の現況

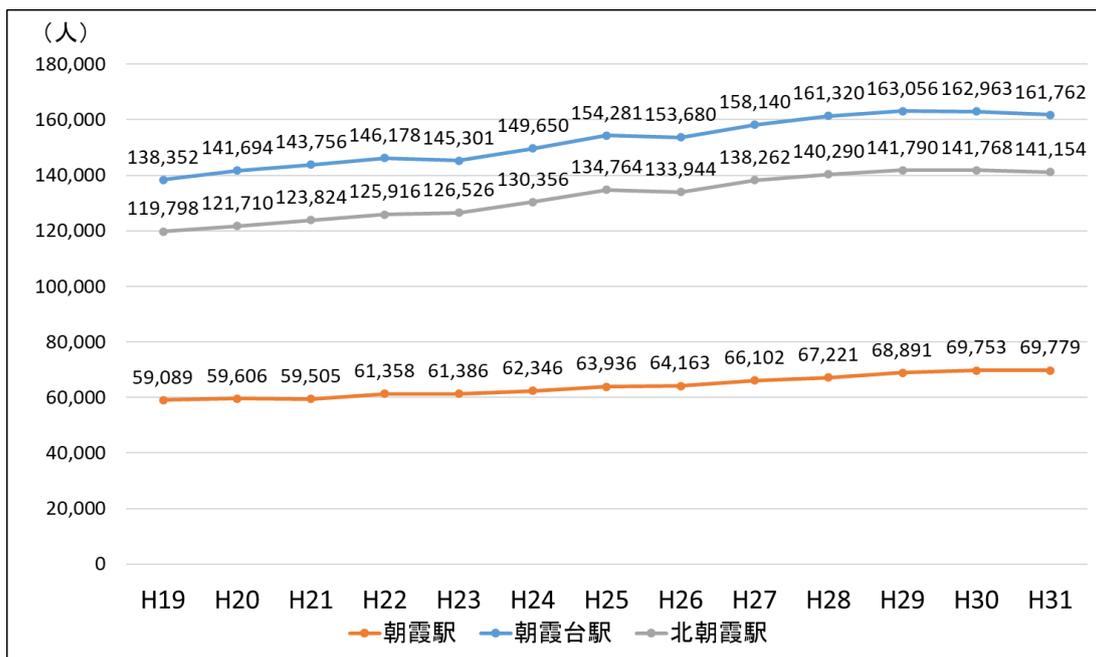
朝霞市は、鉄道駅周辺に都市機能が集約され、コンパクトな市街地が形成されており、鉄道駅を拠点に、路線バス、市内循環バスによって公共交通のネットワークが形成されている。また、タクシー、福祉送迎バスや民間送迎バス、シェアサイクル等の多様な移動手段を備え、交通サービスに優れた都市構造を有している。一方で、鉄道駅やバス停の徒歩圏外の地区も存在しており、今後も進展する高齢化等を見据えると、公共交通の役割は一層高まると考えられる。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が世界規模で続く中、在宅勤務をはじめとするテレワークの進展や過密を避けるなどの新しい生活様式^{*}の定着が進み、国土交通省が公表した「新型コロナウイルス感染症による関係業界への影響について（令和2年12月31日時点まとめ）」や交通事業者へのヒアリング結果などによると、公共交通の利用は大幅に減少しており、今後の利用回復も不透明な状況にある。

(1) 鉄道

市内には、東武東上線の朝霞駅、朝霞台駅、JR 武蔵野線の北朝霞駅が位置している。東京都心に直結する東武東上線は、東京メトロ有楽町線、副都心線、東急東横線及び横浜高速みなとみらい線との相互直通運転を行っており、東京都心のみならず、横浜方面へのアクセスが容易になっている。

各駅の1日平均乗降客数は微増傾向にあり、朝霞台駅の利用者が最も多く、1日に約16万人の利用がある。



(出典：統計あさか)

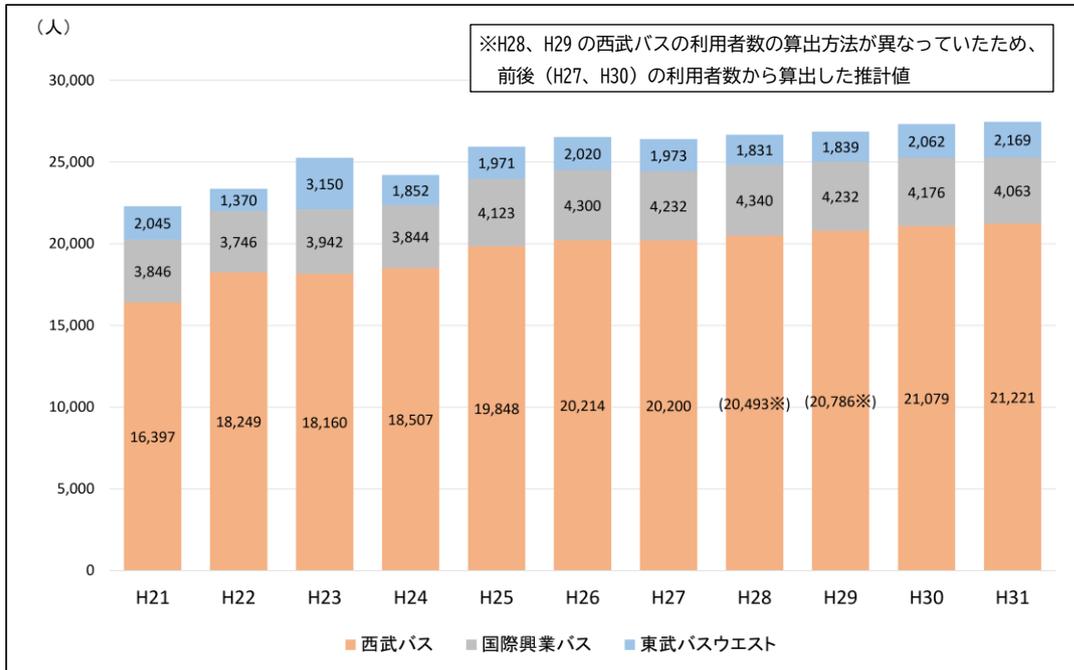
図 10 各駅の1日平均乗降客数の推移

(2)バス

①路線バス

市内には、西武バス、国際興業バス、東武バスウエスの3事業者が運行しており、市内の鉄道駅と近隣市の駅を結ぶルートを行っている。往復100本以上（1時間に3本程度以上）運行する路線バスがあり、鉄道の補完機能を有している路線バスもある。

なお、各バスの1日あたりの利用者数は微増傾向にある。



(出典：統計あさか)

図 11 各バス事業者の1日あたりの利用者数の推移

■参考：新電元工業株式会社 朝霞事業所操業開始に伴うバス路線の新設

【経緯】

新電元工業株式会社朝霞事業所の令和3年春の操業開始にあわせて西武バス(株)では当該事業所と東武東上線朝霞駅とを結ぶバス路線の新設を予定している。

【新電元工業株式会社 朝霞事業所の概要】

所在地：朝霞市幸町三丁目14番1号

敷地面積：約29,600㎡

用途：事務所および研究施設



(新電元工業(株)ニュースリリースより引用)

【新設路線 計画概要】

系統番号	発	着	便数	時間帯
朝30	朝霞駅東口	新電元工業	9	7時台～9時台
朝31	新電元工業	朝霞駅南口	12	16時台～19時台

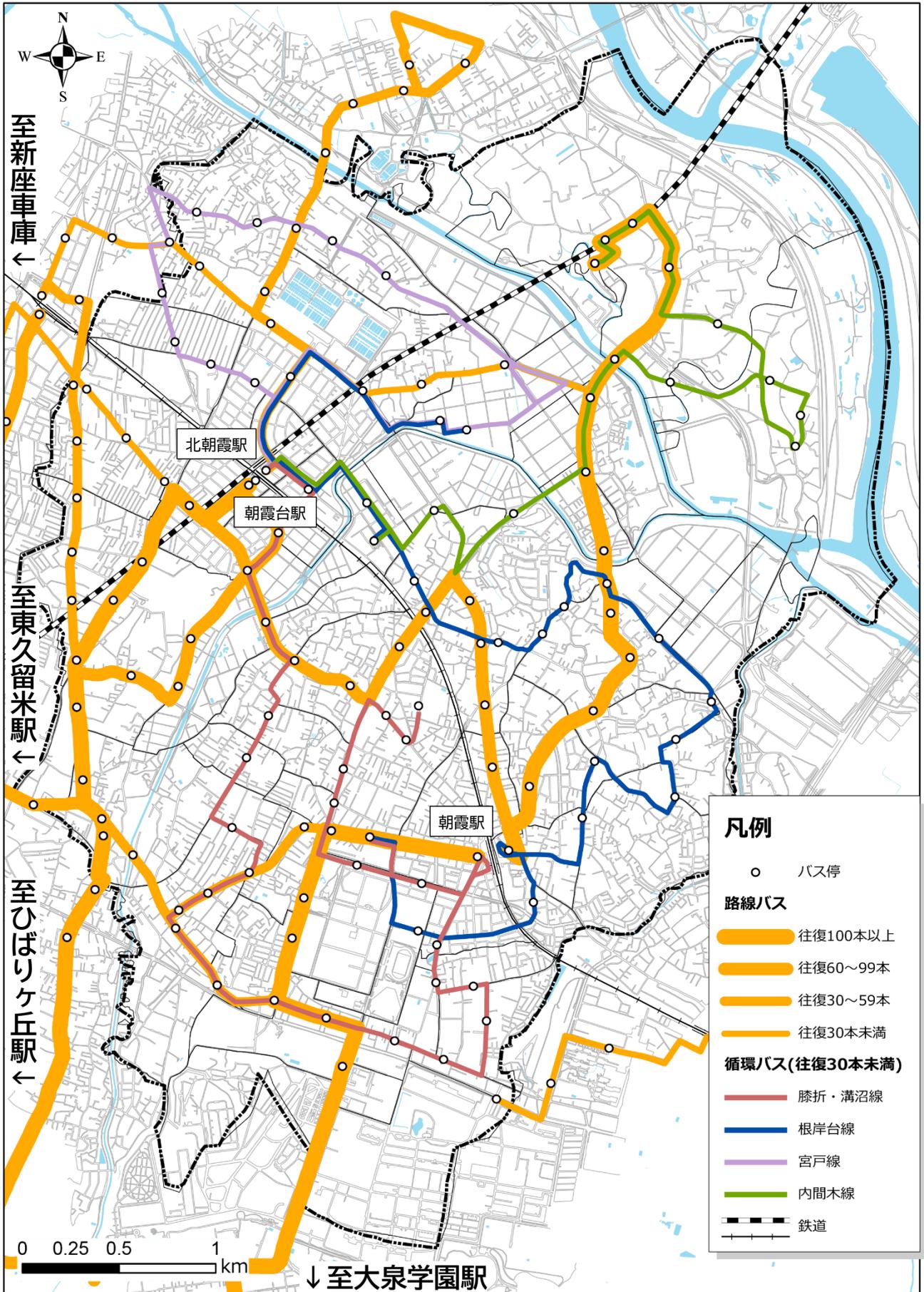


図12 市内を運行するバスネットワーク図(令和3年3月時点)

②市内循環バス

市内循環バスは、平成6(1994)年より、県内初の試みとして、朝霞市健康増進センターわくわくどーむへの連絡を目的に2路線で運行を開始した。その後、朝霞市内循環バス運行見直し方針を策定し、適宜運行計画の変更等を行っている。

現在の市内循環バスは、路線バスを補完し、駅を中心に4路線を運行している。

1日の平均利用者数は微増傾向にあり(図13)、ルートごとにみると膝折・溝沼線が最も利用されている。(図14)

市内循環バスの運行経費が増加する反面、運賃収入は停滞傾向にあり、市の負担は増加傾向にある。(次頁図15)

表1 市内循環バスの運行経緯

年月	内容
平成6年7月	県内初の試みとして、朝霞市健康増進センターわくわくどーむへの連絡を目的に2路線で運行を開始
平成16年10月	4路線に拡大
平成21年6月	「朝霞市内循環バス運行見直し方針」を策定
平成22年4月	一部ルート等を変更
平成27年3月	高齢化の進展や残された公共交通空白地区の対応を図るため、「朝霞市内循環バス「わくわく号」の運行見直し方針」(提言書)を策定し適宜運行計画の一部変更
平成29年10月	提言書に基づき、抜本的な対策が必要であった内間木線の上内間木地域を循環するワゴン車の運行と内間木公園バス停付近の駐車場、駐輪場を整備した社会実験の開始
平成30年10月	ワゴン車の運行は目標に達する見通しが得られないことから実験を終了

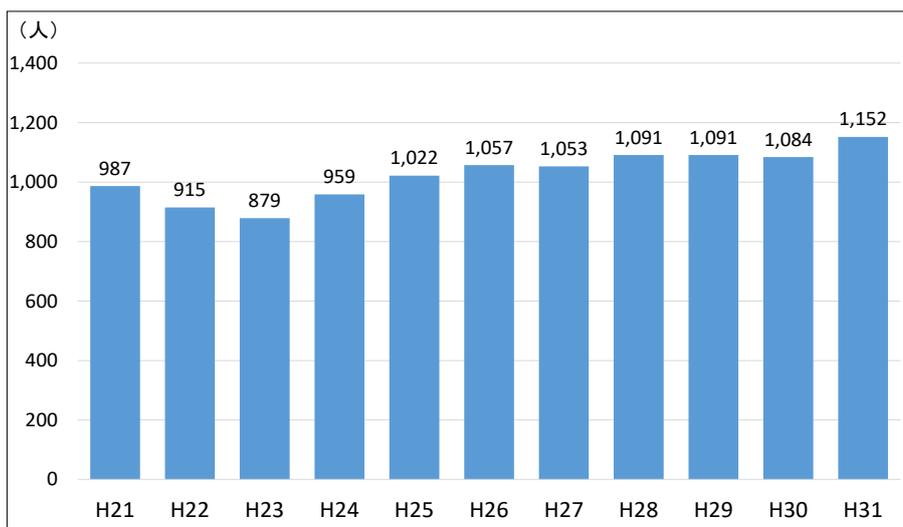


図13 市内循環バスの1日の平均利用者数の推移

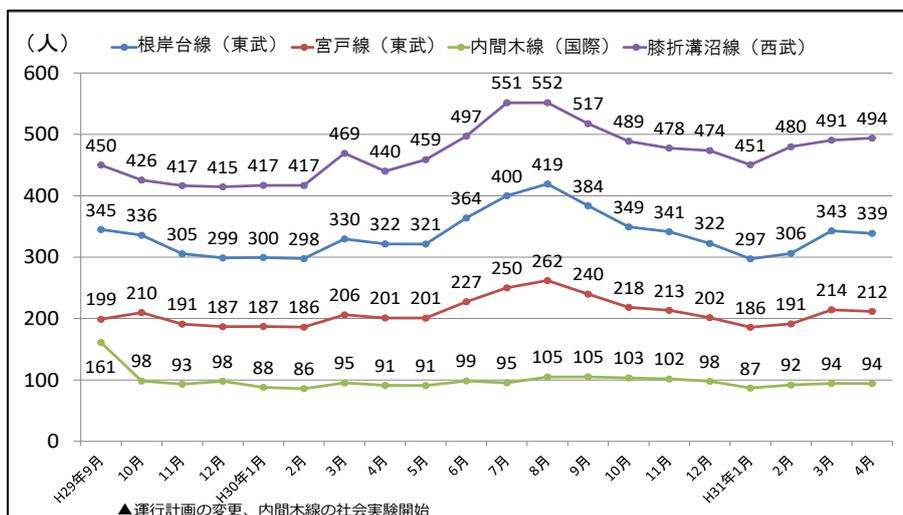


図14 市内循環バスの月別各ルートの1日平均利用者数

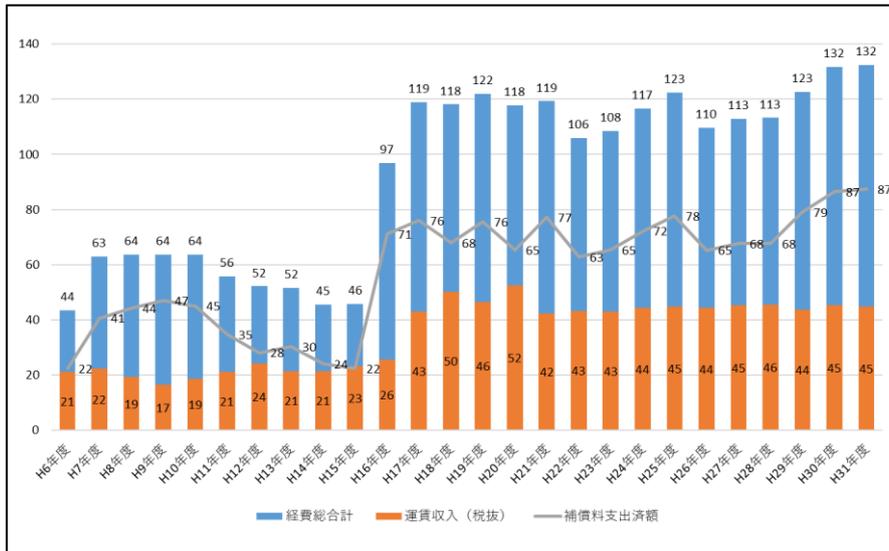


図 15 市内循環バス負担額の推移

(3) タクシー

本市では、タクシー事業者 6 社が朝霞駅、朝霞台駅および北朝霞駅の駅前広場をタクシープールとして活用し運行している。タクシーは、個々の利用者ニーズに合わせたドア・ツー・ドアの面的なサービスを提供する輸送機関としての特徴がある。

なお、埼玉県南西部交通圏（朝霞市、川越市、所沢市、飯能市、東松山市、狭山市、入間市、志木市、和光市、新座市、富士見市、ふじみ野市、坂戸市、鶴ヶ島市、日高市、三芳町、毛呂山町、越生町、滑川町、嵐山町、小川町、ときがわ町、川島町、吉見町、鳩山町、東秩父村）における法人タクシーの利用者数は減少傾向となっている。

表 2 本市で運行するタクシー事業者一覧

事業者名	営業所所在地	占用台数
朝日タクシー株式会社	朝霞市北原二丁目 4 番 16 号	13 台
昭和交通株式会社	朝霞市本町二丁目 21 番 38 号	77 台
朝霞交通有限会社	朝霞市宮戸二丁目 1 番 10 号	20 台
有限会社志木合同タクシー	朝霞市朝志ヶ丘一丁目 5 番	15 台
大和タクシー有限会社	和光市新倉七丁目 4 番 55 号	8 台
三和富士交通株式会社	埼玉県入間郡三芳町上富 1077-1	6 台

(4) 福祉送迎バス

市の施設のうち、浜崎及び溝沼老人福祉センターでは、送迎バスにより市内の北側と南側の 2 ルートを曜日に分けて、1 日 1 便、利用者送迎のため、無料で運行している、

また、総合福祉センター内のはあとびあ福祉作業所では、送迎バスにより 10 ルートを、障害者ふれあいセンター内のあさか福祉作業所では、送迎バスにより 4 ルートを、それぞれ午前と午後 1 便、利用者送迎のため、無料で運行している。

(5) 福祉有償運送

福祉有償運送は、一人で公共交通機関を利用することが困難である高齢者・障害者等に、必要に応じて自家用自動車による個別輸送サービスを提供する役割を担っている。本市においては、主にNPO法人により、福祉有償運送が実施されている。

〈福祉有償運送を利用できる方の条件〉

- ・身体障害者手帳を所持している方
- ・要介護認定・要支援認定を受けている方
- ・知的障害、精神障害などにより、単独では公共交通機関を利用することが困難な方

福祉有償運送を利用するためには、福祉有償運送を行う団体へ会員として登録することが必要となる。

表 3 市内で登録のある団体

名称	区域
特定非営利活動法人 ユウケア	朝霞市、新座市、志木市
NPO 法人キラキラ	朝霞市、新座市、志木市
特定非営利活動法人 障害者も地域で共に・コーヒータイム	朝霞市

福祉有償運送の実施に当たっては、福祉有償運送運営協議会による協議を経て、道路運送法第79条により埼玉県知事の登録を受ける必要がある。

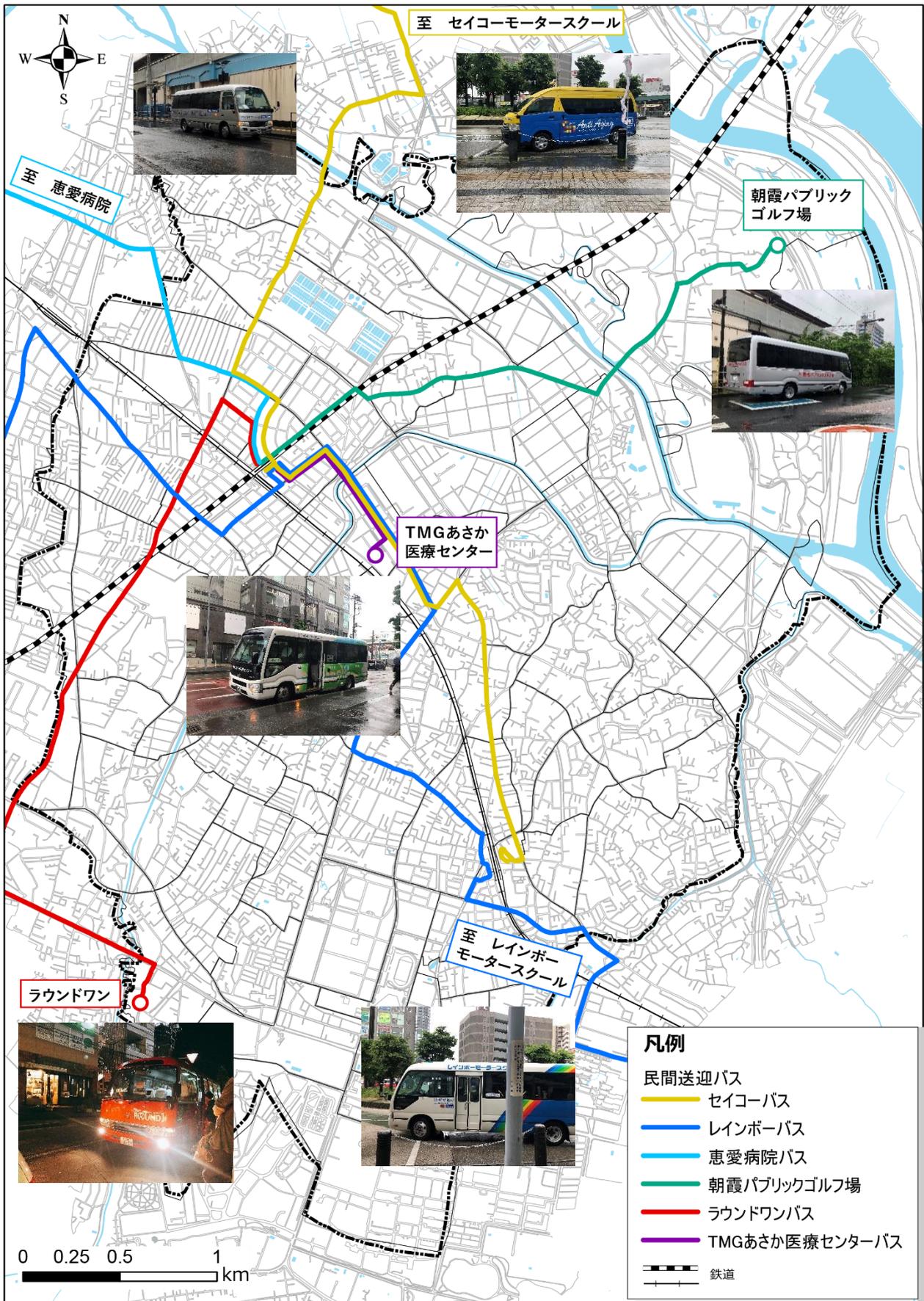
(6) 民間送迎バス

市内には、令和2(2020)年10月時点で、鉄道駅と主に医療施設や遊戯施設、自動車学校等を結ぶ民間の送迎バスが運行している。(ルートは19頁図16を参照)

また、令和3(2021)年3月上旬より、あさかりードタウンから和光市駅(土日祝は朝霞駅を經由)までの間を無料送迎バスが実証実験として運行する予定となっている。

表 4 市内を運行する主な民間送迎バスの一覧

施設種別	事業者名	路線本数(本/日)	
		平日	休日・祝日
医療施設	TMG あさか医療センター	45	42
	恵愛病院	14	—
遊戯施設	ラウンドワン	9	15
	朝霞パブリックゴルフ場	5	5
自動車学校	レインボーモータースクール	11	9
	セイコーモータースクール	11	11



(※駅から目的地までのルートは一部想定を含む)

図 16 民間送迎バスのルート

■参考：あさかりードタウン施設専用周回バス運行の実証実験概要

【あさかりードタウンの概要】

- ・所在地：埼玉県朝霞市根岸台三丁目
- ・戸建住宅、マンション、商業施設（スーパー・ホームセンター）、公園、保育所、コミュニティ施設、住宅型有料老人ホームを兼ねそろえた、総面積約73,400㎡の複合大規模タウン

【実証実験の概要】

- ・あさかりードタウン住民と商業施設、社会福祉施設等利用者の交通利便性を向上させて、朝霞市の活性化を目指すことを目的に、あさかりードタウンと和光市駅(土日祝は朝霞駅を経由)を結ぶ運行を実証実験予定（実証実験中は運賃無料）
- ・令和3(2021)年3月から実証実験を開始し、半年から1年程度で認可バス運行へ移行予定



平日（朝・夜）		土日祝（日中）	
あさかりードタウン⇔和光市駅		あさかりードタウン⇔朝霞駅⇔和光市駅	
運行日：月火水金（水曜日は運休日）	運行日：土日祝	運行日：土日祝	運行日：土日祝
6:30	10:00	10:00	10:30
7:10	10:50	11:40	00:50
8:30	30	12:00	10
17:30	50	13:30	40
18:10	50	14:20	30
19:30	10	15:10	20
20:10	50	16:00	50
21:10	30	17:40	00
	50	18:00	50
	10		20
			10

(7)シェアサイクル

本市では、環境と人にやさしい交通ネットワークの形成に向け、OpenStreet 株式会社、シナネンモビリティ PLUS 株式会社と共同で、シェアサイクルの実証実験を平成 31(2019)年 1 月から実施している。

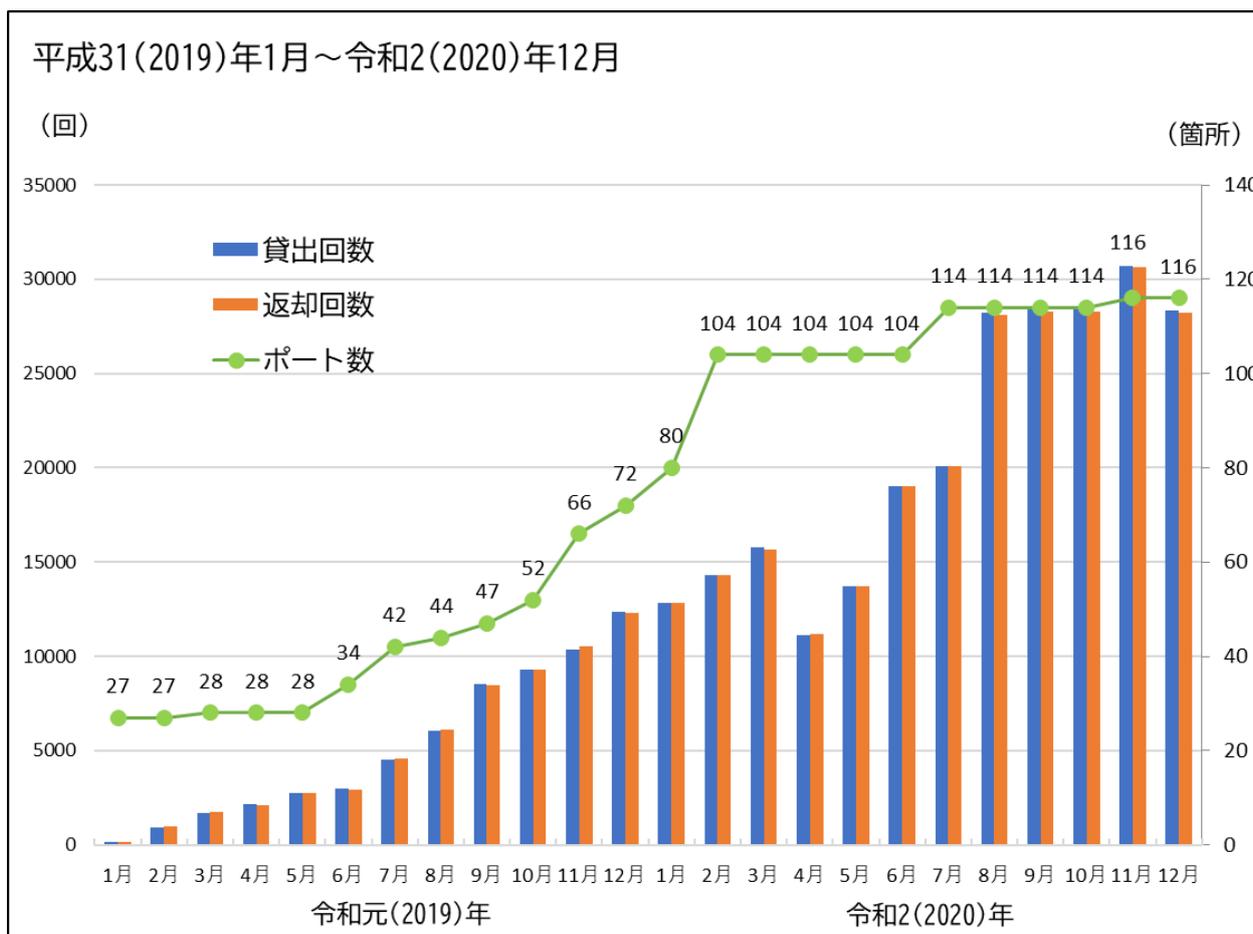
現在、市内には、公共施設やコンビニエンスストアなどの施設に、令和 2(2020)年 12 月時点で計 116 箇所のサイクルポートが設置されており、手軽な移動手段として認知されてきている。

利用者は増加傾向にあり、新型コロナウイルスの感染拡大で一度は利用が減少したものの、その後は利用が大幅に伸び、新しい生活様式の定着もあり、自転車の需要が高まっている。

国においても、自転車活用推進計画を策定後、シェアサイクルの在り方検討委員会を設置し、シェアサイクルを公共交通を補完するものとして位置付け、地域公共交通計画等との連携を図ることと提言しており、本市においても、市民ニーズやポートの配置状況などを勘案し、ポートの設置に努めている。



写真1 北朝霞駅前広場シェアサイクルポート



(8) 公共交通空白地区

本市では、広範囲にわたり路線バス及び市内循環バスの路線が行き渡っており、鉄道駅やバス停から徒歩圏内（駅から半径 300m、バス停から半径 300m）の人口カバー率は 96.6%となっているが、一部、鉄道駅やバス停の徒歩圏外の公共交通空白地区がみられる。公共交通空白地区の面積は約 226ha（メッシュ人口が 0 の面積は除く）で、本市の面積(1,834ha)の約 12%にあたる。比較的人口がまとまっている地区（上内間木地区、根岸台 7 丁目、膝折町 4 丁目）を先行検討地区として設定する。

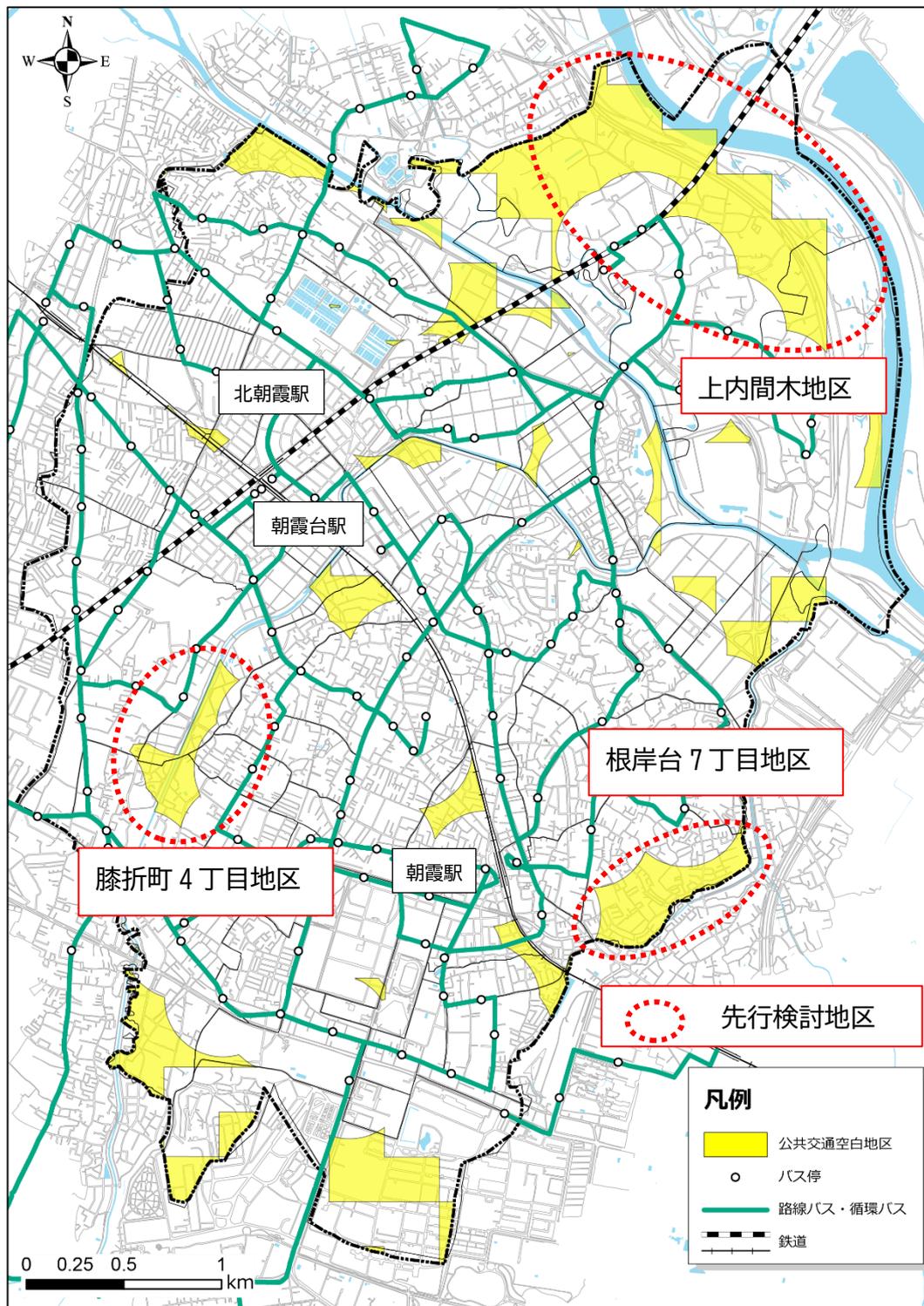


図 18 公共交通空白地区